

タイトル	中国山間部農村における農民專業合作社の実証研究 - 陝西省南部の現地調査に基づいて -
著者	李, 順杰; LI, Shunjue
引用	
発行日	2016-09-30

氏名・（本籍地） Li Shunjie 李順杰 （中国）

学 位 の 種 類 博士（商学）

学 位 記 番 号 博（商学） 甲第 2 号

学位授与の日付 平成 28 年 9 月 30 日

学位授与の条件 規則第 4 条第 1 項該当

学位論文題目 An Empirical Study on Farmers Specialized Cooperatives
in Mountainous Countryside of China
----Based on the Fieldwork in Southern Shaanxi Province
中国山間部農村における農民專業合作社の実証研究
——陝西省南部の現地調査に基づいて

論文審査委員 主査 教授 石原享一
副査 教授 西川博史
副査 教授 伊藤昭男

I. 論文内容の要旨

1 本論文の目的

李順杰氏の論文は英文で執筆されており、表題は *An Empirical Study on Farmers Specialized Cooperatives in Mountainous Countryside of China----Based on the Fieldwork in Southern Shaanxi Province*（中国山間部農村における農民專業合作社の実証研究——陝西省南部の現地調査に基づいて）である。

本論文の目的は、中国の陝西省南部の山間部農村における「農民專業合作社」（FSC）の運営について、その現状と問題点を明らかにし、山間部農村の発展にとって FSC がどのような役割を果たすかを探ることにある。

中国では都市と農村との間、沿海部と内陸部との間に、所得水準やインフラ整備などの面で大きな格差がある。そのような不利な条件をかかえた山間部の農村が改革開放以降の市場経済化の波の中で、いかに生き残り、地方経済を発展させていくかは中国全体にとっても重要な課題となっている。

本論文は、山間部農村の農民たちが自らの置かれた困難な状況を打開していくための方策の一つとして、農民の協同組合組織が果たす役割について実証的に検討したものである。

2 農民專業合作社（FSC）の定義

農民專業合作社（FSC）とは、同一種類の農産物を生産したり、販売したりする農民有志が結成した協同組合組織である。改革開放以降の市場経済化の波に乗って登場したこの組織は、1950年代の社会主義期の農業生産合作社とは性格が異なる。

1950年代の農業生産合作社（Agricultural Producers' Cooperatives）は、社会主義的な集団農業を達成するために上から半ば強制的に組織された農民の協同組合である。この組織は政府統制を強化し、市場経済を否定していく方向をめざしていた。

それに対し、本論文が対象としている FSC は、1970 年代末からの家庭請負責任制（家族経営）の上に自由意志による加入、民主的な運営を原則とし、市場経済に適応して、いかに収益を上げるかを目標としている。

3 本論文の構成

本論文の構成は、全 3 部 6 章からなる。

第 1 部は、研究の枠組み、研究方法、研究の意義について説明した第 1 章と、FSC の定義と全国的な設立状況を整理した第 2 章からなる。

改革開放以降の家庭請負責任制の導入によって、農業では小規模な家族経営が支配的となっていた。この農業経営の弱点を補うため、政府は農民の自発性に基づく協同組合化を奨励していたが、2007 年の「農民專業合作社法」の発布を経て、FSC は急速に全国に広がってきた。2014 年には 129 万戸の農家が FSC に加入し、資本総額は 2 兆 3700 億元に達している。

第 2 部は本論文の中心的部分をなす。陝西省鎮安県での現地調査に基づき、山間部農村における FSC の発展と直面する諸問題を探っている。

第 3 章では、鎮安県における FSC の発展の経緯と現状が整理されている。同県には 202 の行政村があるが、設立された FSC の数は 4400 余に達する。平均すると 1 つの村に 2 つの FSC が設立されている計算になる。このような FSC の普及と発展には農民自身の才覚と努力によるところもあるが、県政府の行政指導が大きく与っている場合や、地方政府から交付される補助金ねらいの場合もある。

第 4 章では、2014 年 10 月に約 1 ヶ月かけて行なわれた鎮安県米糧鎮 S 村での現地調査の成果が呈示されている。この現地調査に基づいて、同村における FSC の組織構成、経営の意思決定のしかた、各 FSC の営む主な業種、FSC と村委との関係など、S 村の FSC の実態に迫っている。

S 村は典型的な山間部農村で、65 世帯 2734 人が住む小さな村である。2014 年の時点で、S 村には村委主導型の FSC12 社、エリート農民主導型の FSC5 社が成立している。S 村に設立された FSC の規模は、加入農民の多いところで 50 人、少ないところで 5 人である（124 頁、第 9 表）。

第5章では、S村の場合を中心に、FSCの発展要因について具体的な事例を検討しつつ、追加的な考察を行なっている。そうした分析の結果、山間部農村のFSCの発展にとって、村委との良好な関係、村の幹部やエリート農民のリーダーシップ、能力主義による人材の抜擢などがカギになることを見出している。

第3部は結論部になる。

第6章において、山間部農村のFSCが直面する困難として、資本不足、市場競争力の弱さ、人材不足、政策支援の不安定性などの問題を挙げている。山間部農村においてFSCが発展していく上で克服しなければならない課題は山積しており、その前途は必ずしも楽観視できるものではない。

Ⅱ．論文審査結果の要旨

1 審査の経過

平成28年7月1日に博士請求論文が提出され、直ちに商学研究科長の下で、審査委員として、主査に石原享一、副査に西川博史と伊藤昭男が選任された。平成28年7月20日に公開報告会が開催され、引き続き口頭試問がおこなわれた。審査員全員の出席のもとに本論文について申請者の説明を求めたのち、関連事項の質疑を行った。その結果、審査委員全員により合格と判定された。

2 評価

(1) 論文の主な成果

本論文の主な成果は、次の3点にある。

第1に、全国的なFSCの発展概況を整理した上で、鎮安県という陝西省南部の山間部農村におけるFSC設立の経緯と現状を明らかにした。

鎮安県を西部・中部・東部の3つの地域に分けて、それぞれの鎮ごとに設立されているFSCの数と業種を調べた上で、組織運営のタイプも政府主導型、エリート農民主導型、企業主導型の3つに分類している(74頁、第6表)。同表は、現地における聞き取りや資料収集を通じて作成されたものである。既成の一覧表などがあるわけではないので、鎮安県におけるFSCの発展状況をまとめる作業にも研究努力の跡が伺える。

成果の第2は、鎮安県において、山間部農村におけるFSCの発展要因やFSCが直面

する諸困難を実態に即して検討したことにある。

1 例を挙げれば、金帝養鶏場は 2009 年に花園里という小開発区に封徳傑らによって設立された私営企業である。同社は経営規模を拡大しようにも用地拡張の面で限界があり、周囲の農民に及ぼす環境汚染などの問題で経営が行き詰っていた。2013 年に村委が斡旋に乗り出し、元の私営企業から、18 人の出資する協同組合組織へと転換した。これにより、用地の拡大構想が実現されると共に、養鶏場と周囲の農家との距離も隔てられ、困難な経営局面を打開することができた。金帝養鶏場は 2014 年には従業員 37 名を雇い、売上額は 200 万元を超えている。

そのほかにも、月明村の安意というタバコ栽培の FSC や、永楽鎮の美雲秦綉という刺繍工業の FSC などが幾たびも挫折や失敗を重ねながら、事業展開をしていく過程も丹念にたどっている。

成果の第 3 は、2014 年 10 月から S 村において約 1 ヶ月にわたる現地調査を行ない、山間部農村がもつ地理的位置、農村の風土、農民の伝統的価値観、社会経済的条件などを踏まえ、S 村の FSC に関する実証的研究を仕上げたことである。

村委幹部、FSC に加入している農民、一般の村民たちへの取材、対話、雑談などを通じて村人の信頼を得つつ、S 村の状況や FSC という組織の実態に迫った。また、FSC の出資者と出資額、収入の分配、理事長の選任などについて、揭示物や領収書などの 1 次資料を入手することにより、部分的に経営状況を解明できたところもある。

農村で協同組合組織の内実を探ろうとしても、農民たちの口は堅い。また、入手したい資料やデータも作成されていない。仮にそういうデータや資料があったとしても、よそ者に見せてくれるはずもない。本論文の筆者は沿海部に位置する煙台大学の教員であるが、もともとの出身地は陝西省鎮安県である。その優位性を生かして、FSC の実態に可能な限り接近したところに本論文の特徴がある。

(2) 評価

上記の本論文の成果にまとめたように、本研究は現地調査に基づき、農民の立場と FSC の組織と経営の実態に即して緻密な分析を行っており、実証研究として優秀である。博士論文として一定の水準に達していることを認める。

他方で、本論文の筆者自身も認めているように、鎮安県内の鎮や村の統計資料がほとんど整備されておらず、定量分析を行なうのに必要なデータが十分には得られていない。そのために、FSC の経営や会計のあり方に踏み込めていない。また、FSC の土地・資本の所有関係、経営陣の意思決定の仕組みなど、未解明の課題も多い。さらなる研究の深化を期待する。

なお、本論文の一部はすでに下記のように発表されている。

Li Shunjie, The Operational Models of Farmers Specialized Cooperatives in China's

Mountainous Countryside: Case Studies Based on Zhen'an County, Southern
Shaanxi Province

『北海商科大学論集』第4・5巻合併号、2016年2月（査読付き）

3 学内の手続き

提出された論文の審査ならびに文書及び口頭による最終試験の結果は、本学学位規則第7条に基づき研究科委員会で審査委員会主査から報告され、研究科委員会構成員の閲覧に供するため博士論文の閲覧を経て、平成28年8月8日の研究科委員会において、同論文を合格と決定した（同規則第8条第1項）。

その後、同年8月8日、北海商科大学大学院委員会が開催され、同論文について商学研究科長より、委員会の審査経過ならびに論文要旨の報告がなされ、合格とすることが承認された（同規則第10条第2項）。これに基づき、同年9月30日、博士（商学）の学位が授与された。